食肉に関するニュースを確実、迅速にお届けする日刊紙

※土日祝・休刊

令和7年
2025年
8月21日
木曜日
第11778号

食肉速報
THE DAILY MEAT NEWS

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可
購読料〈前納〉
年間 82,080円
（税込み）
6カ月 42,120円
（税込み）
本紙は関連企業・団体とのタイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
https://www.shokuniku.co.jp/

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995

CONTENTS

自民党で農林部会等合同会議が開催された……P4

▶［下期の牛価予想］牛肉消費は減少へ、 需要は低価格な商品に……P2～3

▶25／26年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み―USDA報告……P3

▶農林部会等合同会議で令和8年度予算概算要求（額なし）示す―自民党……P4

▶家畜改良事業団「武知恵」「知恵照」を含む5頭を選抜、令和3年度後期検定選抜牛説明会を開催……P5

▶［配合飼料生産量・6月］計182万5345tで前年比0・4％減……P6

▶初のオリジナルブランド鴨「岩手 美海鴨」を販売開始―プレコフーズ……P6～7

▶「JAPAN PACK2025」を10月7～10日にかけて、東京ビッグサイトで開催―JPMA……P7

▶中国、豪州産牛肉に対し特別セーフガードを発動……P8

▶［資料］ 日本食肉流通センター週間市況 〈 和牛・交雑牛・乳牛チルド 〉……P9

▶［東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数］20日……P10

▶［各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場］20日…P11

▶▶▶ 注目のヘッドライン

［下期の牛価予想］ 牛肉消費は減少へ、需要は低価格な商品に

…詳細はP2～3

25 ／ 26 年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み―ＵＳＤＡ報告

…詳細はP3

新刊 銘柄牛肉ガイドブック'25
多岐にわたる情報を網羅
380ブランド以上
定価 B5判／258頁 2,500円
生産 と畜 流通
食肉通信社

［下期の牛価予想］牛肉消費は減少へ、 需要は低価格な商品に

和牛の生産頭数の回復もあって、和牛相場が伸び悩んでいる。ただ、生産の回復は、食肉産業の拡大の意味では喜ばしいことといえる。本当の問題はこうした回復に牛肉消費が追いついていない状況にある。リーズナブルになってきている相場を受けて、消費の活発化を期待したいところだが、先の参議院選挙の争点にもなった物価高や消費税減税など、家計負担の問題から、なかなか消費拡大は難しくなっている。下半期の国産牛価を予測する。

この15年ほどの相場を振り返ると、2010年代は黒毛和牛の生産頭数が減少し、相場が高騰した。特に16～19年の4年間は、東京市場の和牛Ａ５等級の月間平均枝肉相場が2600円を下回ることがなかった。

20年代に入り、新型コロナウイルス感染症問題で外出自粛の動きが強まったことから、一時、相場は暴落したが、行政の支援事業の影響もあってすぐに回復。ただ、その後、現在に至るまでの和牛の生産頭数増加傾向を受けて、価格は徐々に下落している。

和牛のと畜頭数は東日本大震災後の13年ごろから減少し始め、その後、17年まで減少。しかし行政の施策などもあって18年からは増加に転じた。

その後、新型コロナに伴う予防施策もあって出荷体制が乱れたが、基調としては現在まで増頭ベースとなっている。

半面、生産頭数が増えており、枝肉重量も増加傾向となると、それを販売・消費するだけの胃袋が必要になるが、人口減少、価値観の多様化、物価高騰に伴う景気不透明感など、和牛の消費環境は厳しい。

こうした状況下で、次項に述べるように、売り先は海外に求められている。

ただ、東日本大震災前である10年の和牛相場をみると、例えば7月平均がＡ５等級2101円、Ａ４が1690円、Ａ３が1452円。交雑牛Ｂ３が1118円となっており、驚くほど安い。これに比べれば、今はまだまだ高いともいえる。

現況においては、インバウンド需要の高まりや海外輸出による需要の後押しを受けて相場は保たれているものの、国内では霜降り肉敬遠の影響で、ロースの売れ行きが鈍化している他、この数年はバラが夏場でも売りづらくなる「バラ離れ」傾向も顕著となってきている。近年、豚肉においてバラ需要が高まっているのとは対照的といえる。

また、和牛から交雑牛へのシフトも増えている。交雑牛の品質が高まっている中で、割安な交雑牛が和牛の代替需要の受け皿となっている。

総務省統計局公表の家計調査による肉類購入量をみると、牛肉は23年次も減少傾向だったが、24年次も多くの月で減少が目立っていた。25年に入ってからも１～５月はいずれも前年同月を下回っている。

こうした結果について、家計調査の場合、輸入牛肉の相場高に伴う喫食機会の減少も要因には含まれるが、和牛を中心とした国産牛肉の苦戦も大いに関係しているだろう。厳しい消費環境の中、牛肉消費は非常に苦戦している。

また、家計消費では豚肉の相場高もあって、豚肉の販売量も伸び悩んでいる。これに対し、鶏肉と合いびき肉の購入量が増加していることも傾向としてみられることから、低価格商材への需要シフトが顕著であることがみてとれる。

なお、購入金額でみると、豚・鶏・合びき肉はおおむね金額を伸ばしているのに対し、牛肉については、１～３月、５月の計４カ月において前年を下回っており、量・金額ともに苦戦していることが浮き彫りとなっている。

このように厳しい消費環境の中では、販売を大きく伸ばすことは難しいだろう。

本稿では和牛消費を支えているインバウンド需要と海外輸出の数字をみていく。

国内における和牛の消費を支えているのは間違いなくインバウンド消費だろう。グーグルの地図アプリ「Ｇｏｏｇｌｅマップ」に書き込まれている来店者による飲食店のクチコミをみると、ステーキハウスなどの高級店では、場合によっては外国人の書き込みの方が多いといえるほど大量に書き込まれ、海外からの日本の「食」への注目度の高さを感じさせられる。

官公庁による訪日外国人旅行者数の推移は、10年前の15年が1974万人、16年2404万人、17年2869万人、18年3119万人、19年3188万人。20～22年はコロナの影響で少なく、23年が2507万人、24年が3687万人と過去最高を記録した。

今年に入ってからも1月が378万人（前年同月比40・6％増）、2月325万人（16・9％増）、3月349万人（13・5％増）、4月390万人（28・5％増）、5月369万人（21・5％増）、6月337万人（7・6％増）で、上半期の累計が2151万人となり、過去最速となる6カ月での2千万人突破なった。

訪日人数が多い国を国・地域別でみると、トップが韓国で、続いて中国、台湾、米国と続いている。その他、東南アジアなど、やはりアジア圏から訪れているケースが多い。

牛肉輸出に関してみていくと、20年が4845t、288億円。21年が7879t、536億円。22年7454t、513億円。23年8421t、569億円。24年1万113t、635億円となっている。24年は初となる大台の1万tに達し、金額も600億円台に乗った。

今年は1～5月の累計で417tとなっており、前年同月比22・7％増で推移。過去最高だった昨年を2割も上回るペースで伸長している。

前項の家計消費でみた通り、日本人による牛肉の消費は減少傾向にある中では、外国人の力を借りた食肉需要の拡大は欠かせない状況にあるといえるだろう。

食肉通信25年1月1日発行の新年特別号において、今年の和牛と畜頭数について微増との見通しを立てた。上半期が過ぎた現在の感触でいえば、和牛と畜頭数は、毎月、前年同月を上回るペースで推移しており、微増にとどまらない大幅な増頭も予測される。

下半期の相場見通しとしては、本紙新年号における予想を変えておらず、8月が旧盆商戦以降の消費の減退を受けて苦戦する見通しから2300円まで下落すると予測。

続く9月は、昨年と同様、上昇のきっかけとなった月であることから8月から100円アップするとみて2400円。

昨年はその後、10～12月と怒涛（どとう）の上伸をみせたが、今年も年末需要への対応から、同様の引き合いを予測する。

10月は相場の上昇期として2450円と予測、11月は仕入れの時期とみて2600円。12月にはもう一段高値になるとみて2650円と予測した。

近年は年末もかなりの相場高が続いていたが、それよりはやや低めの予測としている。和牛生産頭数の順調な回復や、国内消費が限定的であると見込んでいることによるものだ。

潤沢な生産は喜ばしい一方で、こうした生産体制が、海外輸出やインバウンド消費に頼るだけでなく、国内食肉需要の活性化につながることを期待したい。

25／26年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み―ＵＳＤＡ報告

農水省がまとめた米国農務省穀物需給報告（現地時間12日）によると、2025／26年度の世界の穀物全体の需給は、生産量が29億2035万t（前年度比2・6％増）、消費量が29億2554万t、（1・5％増）、期末在庫量が7億5648万t（0・7％減）を見込んでいる。

品目別にみると、小麦の生産量は8億690万t（0・9％増）、消費量は8億953万t（0・3％増）、期末在庫量は2億6008万t（1・0％減）を見込んでいる。価格は7月に入り、米国、カナダおよび欧州の高温による小麦の作柄懸念などを受けて5ドル／bu台半ばまで値を上げたものの、北半球における冬小麦の収穫進展等を受けて値を下げ、7月末現在、5ドル/bu台前半で推移。

とうもろこしの生産量は12億8858万t（5・1％増）、消費量は12億8915万t（2・4％増）、期末在庫量は2億8254万t（0・2％減）を見込んでいる。価格は7月に入り、米国の良好な天候やブラジルの豊作見通しなどを受けて値を下げ、7月末現在、3ドル/bu台後半で推移。

大豆の生産量は、4億2639万t（0・6％増）、消費量は4億2510万t（3・5％増）、期末在庫量は1億2490万t（0・2％減）を見込んでいる。価格は7月に入り、大豆油の高騰や米中貿易協議進展への期待などから10ドル/bu台半ばまで値を上げたものの、米国の良好な天候見通し等を受けて値を下げ、7月末現在、9ドル/bu台半ばで推移している。

農林部会等合同会議で令和８年度予算概算要求（額なし）示す
ー自民党

自民党は20日、総合農林政策調査会・農林部会合同会議を党内で開催し、令和８年度予算概算要求重点事項の額なしを示した。

重点事項案では、①食料安全保証の強化②農業の持続的な発展③農村の振興④環境と調和のとれた食料システムの確立⑤多面的機能の発揮⑥2050年ネット・ゼロなどに貢献する「森の国・木の街」の実現に向けた森林資源循環利用施策の総合的な展開を柱に据えており、新たな食料・農業・農村基本計画や現下の米をめぐる情勢を踏まえ、農業構造転換集中対策を着実に実施しつつ、食料安全保障の強化、農業の持続的な発展、農村の振興、環境と調和のとれた食料システムの確立等に向けた農林水産政策を推進し、農林水産業の持続可能な成長を実現するための予算を要求するとしている。

畜産生産体制の強化では、遺伝子解析技術などを活用した家畜改良の推進、肉用牛の出荷月齢の早期化、和牛の信頼確保のための遺伝子型検査などの支援、畜産関係団体やＩＴベンダー等が連携し、生産関連情報を集約・活用する体制を整備する取り組みなどを支援する。

畜産・酪農における環境負荷低減などの取り組みの推進では、酪農・肉用牛経営者らが連携した有機飼料の生産拡大、家畜排せつ物処理施設の機能の強化、畜産分野における温室効果ガス（GHG）対策の普及啓発、アニマルウエルフェアに配慮した飼養管理の普及・定着や畜産ＧＡＰの拡大に向けた取り組み等を支援。

家畜・食肉などの流通体制の強化では、コンソーシアムが取り組む食肉処理施設の再編に必要な施設や収益力強化に資する省力化機械等の整備、家畜市場の合併に必要な施設の整備、液卵製造施設の整備などを支援する。

国産飼料の生産・利用拡大では、酪農・肉用牛経営者らの連携による計画的な飼料増産や飼料品質向上の取り組みおよび飼料生産組織の人材確保・育成、国産濃厚飼料の生産・利用の推進、生産性の高

い持続可能な飼料産地の形成の取り組みを支援するほか、飼料の安定供給として、飼料穀物の備蓄、飼料輸送の合理化の実証、配合飼料の製造の効率化などに向けた調査等の取り組みを支援する。

畜産・酪農経営安定対策では、畜種ごとの特性に応じて、肉用子牛生産者補給金、肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）、肉豚経営安定交付金（豚マルキン）、加工原料乳生産者補給金、鶏卵生産者経営安定対策事業などにより、畜産・酪農経営の安定を支援する。

家畜衛生等総合対策では、家畜伝染病予防法に基づき、殺処分をした家畜などに対する手当金や、都道府県の防疫措置等に対する負担金を交付するほか、家畜の伝染性疾病の侵入防止のための水際での検疫措置などを支援。産業動物獣医師の確保、情報通信機器を活用した遠隔診療による獣医療の提供の推進などを支援。

また、重点事項では、「海外依存度の高い品目の国産転換の推進」として、水田活用の直接支払交付金や、水田農業の高収益化の推進なども示されており、これについて、議員からは、「飼料用米について、主食用米の値段が上がったことで飼料用米の生産が減少しており、畜産側も懸念している。飼料用米については、需要があるから生産しているのではなく、生産が安定しているからこそ需要も生まれてくる。WCSも含めて、生産を振興していくことが大事である」などの意見が上がった。

次回は、概算要求の額ありを示す予定だ。

家畜改良事業団「武知恵」「知恵照」を含む５頭を選抜
令和３年度後期検定選抜牛説明会を開催

一般㈳家畜改良事業団は19日、令和３年度後期検定の選抜牛決定に伴い、説明会を開催した。今回選抜された5頭についての概要は以下のとおり。

【忠太１（ちゅうた１）】「忠太1」の母「かんあてね」は高い増体能力を有する「百太」（父=若百合)を生産した母であり、脂肪酸組成に長けた「勘太」（父=美津百合）の全きょうだいにも当たる高能力の繁殖雌牛。この「かんあてね」に「安亀忠」を交配し作出された同牛は「平茂勝」の血液が濃い特徴的な血統を有し、同団では「安亀忠」の初めての息牛として選抜された。同牛は現場後代検定において、ＢＭＳ９・8、枝肉重量542kg.、ロース芯面積74㎠、バラの厚さ9・2㎝と多くの形質で優れた成績を記録。特に調査牛9頭(去勢３頭、雌６頭)が、枝肉重量550kgを超える成績を記録するなど、増体能力の改良も期待される。枝肉形質G育種価では、枝肉重量第1位、日齢枝肉重量第1位、バラの厚さ第3位、ＢＭＳ第17位と特に増体能力が突出した特長を持ち、枝肉主要3形質では第9位となっている。

【若幸久（わかさちひさ）】「若幸久」の祖母「てつせん」は、脂肪交雑能力で北海道育種価第7位と高能力の繁殖雌牛であり、数多くの優秀な雌牛や種雄牛を輩出している。この「てつせん」の優れた遺伝的能力を受け継ぐ「かずよ」に「若百合」を交配し作出された同牛は、現場後代検定において、特に雌の成績に優れ、ロース芯面積84㎠、ＢＭＳ10・1、A4以上率100%を記録したことから繁殖雌牛の改良としても貢献が期待される。枝肉形質G育種価では、ロース芯面積第4位、歩留まり基準値第5位と優れ、産子の枝肉においては、厚みがあり、モモ抜けも良く、枝肉全体にサシが入るなどの評価の高い枝肉が多くみられた。

【伊勢之舞（いせのまい）】「伊勢之舞」の母「こ138」は、父に「美穂国」、母の父に「忠富士」と宮崎県の血液を色濃くくむ血統構成の繁殖雌牛。この「こ138」に脂質が良好で枝肉評価の高い「舞菊福」を交配して作出された同牛は、「舞菊福」の初めての息牛として選抜された。同牛は現場後代検定において、ＢＭＳ８・8、枝肉重量508kg、ロース芯面積73㎠と父を超える遺伝的能力を示し、A4以上率100%、ＢＭＳ№10以上を13頭記録。枝肉形質G育種価では、枝肉重量第13位、ロース芯面積第13位、バラの厚さ第20位と上位に位置している。また、脂肪酸組成G育種価にも優れており、MUFA、オレイン酸の改良も大いに期待される種雄牛。産子の枝肉においては、脂肪の質の良さに加え、コザシ傾向といった特長がみられた。

【武知恵（たけちえ）】「武知恵」の母「ななみ」は、「白鵬85の3」を父に持つ鳥取県畜産試験場で生産された受精卵産子で、鳥取県有種雄牛である「百合鵬２」の全きょうだい。ＢＭＳの能力が特筆したG育種価を有していたため計画交配の対象となり、脂肪の質の評価の高い「知恵久」を交配し作出された。父「知恵久」の抜群の脂肪交雑能力を受け継ぎ、現場後代検定においてＢＭＳ№10以上を13頭記録、枝肉形質G育種価では、皮下脂肪厚第8位、ＢＭＳ第18位と優れており、脂肪酸組成G育種価のMUFA、オレイン酸も「知恵久」譲りで、脂肪の質の改良も期待でき、産子の枝肉においては、モモ抜けも良く、コザシ傾向といった特長がみられた。

【知恵照（ちえてる）】「知恵照」の母「みなかみ234」は、父に「美津照重」、母の父に「百合茂」を持つ繁殖雌牛で、この「みなかみ234」に枝肉共励会において高い評価を得ている「知恵久」を交配し作出された同牛は「美津照」の血液が非常に濃い特長的な血統を有しており、父「知恵久」の優れた脂肪交雑能力を受け継ぎ、現場後代検定においてA4以上率100%、ＢＭＳ№10以上を10頭記録した。枝肉形質G育種価では、父「知恵久」同様に枝肉重量では若干見劣りするが、皮下脂肪厚第10位、ＢＭＳ第11位と無駄なく肉量を確保しながら、脂肪交雑能力を改良する特長を有しており、産子の枝肉においては、モモ抜けも良く、コザシ傾向といった特長がみられた。

［配合飼料生産量・6月］計182万5345ｔで前年比0・4%減

農水省が20日に公表した6月の配合飼料の生産・出荷・在庫状況（速報版）によると、生産量は182万5345ｔ（前年同月比0・4%減）、出荷量は183万8137ｔ（0・8%減）となった。

そのうち養鶏用をみると、成鶏は生産量が43万4443ｔ（0・6%増）、出荷量が44万1199ｔ（0・5%増）、ブロイラーは生産量が30万953ｔ（1・8%減）、出荷量が30万2204ｔ（2・2%減）となっている。育すうは生産量が5万2088ｔ（5・8%増）、出荷量が5万2672ｔ（5・8%増）と前年同月を上回った。

養豚用の肉豚は生産量が17万9965ｔ（前年並み）、出荷量が18万2087ｔ（0・2%減）、子豚は生産量、出荷量ともに前年同月を下回った。

肉牛用は生産量が36万9506ｔ（1・5%減）、出荷量は37万3287ｔ（1・7%減）。肉牛用のうち子牛用は生産量、出荷量ともに前年同月を下回った。

配合飼料生産・出荷・在庫状況　単位：トン、%

	区分	生産量	前年比	出荷量	前年比	当月末在庫
養鶏用	計	787,484	100.0	796,075	99.8	10,101
	育すう	52,088	105.8	52,672	105.8	1,061
	成鶏	434,443	100.6	441,199	100.5	4,480
	ブロイラー	300,953	98.2	302,204	97.8	4,630
養豚用	計	410,254	99.1	422,334	98.9	13,960
	ほ乳期	53,742	99.4	53,477	99.1	6,145
	子豚	114,138	99.5	115,253	96.3	2,429
	肉豚	179,965	100.0	182,087	99.8	3,332
	種豚	71,409	101.1	71,517	100.7	2,054
養牛用	乳牛用計	245,114	100.9	242,550	99.8	27,795
	うち子牛用	12,413	98.9	11,754	96.0	4,066
	肉牛用計	369,506	98.5	373,287	98.3	28,238
	うち子牛用	50,690	93.4	50,597	92.2	8,966

注：工場数130

初のオリジナルブランド鴨「岩手 美海鴨」を販売開始ープレコフーズ

㈱プレコフーズは19日、初のオリジナルブランド鴨「岩手 美海鴨（いわて みうながも）」の販売を開始した。

現在、同社では鶏肉2種、豚肉2種、牛肉1種、鮮魚1種のオリジナルブランドを取り扱っており、今回のオリジナルブランド鴨肉の販売は、グレードの高い鴨肉を求める飲食店のニーズに応えるため、生産者への約1年の交渉を経て実現した。

「岩手 美海鴨」は、三陸海岸沿いにある岩手県田野畑村の指定農場で育てたこだわりの鴨。指定農場は、チェリバレー種の故郷であるイギリス東部のリンカンシャー州のように、海のほど近くにあり、のどかな自然に恵まれた広い農場で、鴨は潮風を浴びながらのびのびと成長する。

全飼育期間中、抗生物質や合成抗菌剤は一切使わず、自然由来の飼料で肥育。1羽1羽、食鳥検査済み。穀物を原料とした独自配合の飼料は、鴨が食べやすいようにペレット状にして与えている。飼料への細かなこだわりが、鴨のストレスを減らし、臭みが少なく、しっとり軟らかな肉質、うまみとコクのある味わいにする。安全・安心な鴨肉を求める全ての人へ、職人が手間を惜しまず育てた、ワンランク上の鴨を届ける。

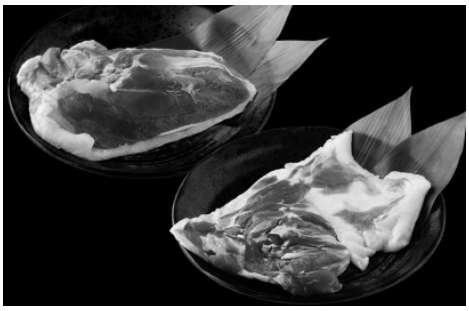
また、臭いの元となる鴨の羽毛はとても抜けにくいため、四つもの工程で毛抜き処理を実施。最終的には人の目で確認し、ピンセットを使い人の手で丁寧に除去している。

通常国産の鴨ロースは200～600ｇ、モモは200～400ｇとサイズが大きいのが一般的だが、同社は1パック1枚入りでサイズ指定の規格のため、調理原価が大きくブレることなく使用できる。ステーキやコンフィなど、1枚使用のメニューもボリュームのあるサイズで提供することが可能だ。

【岩手 美海鴨 ロース】脂と赤身のバランスが良

く、見た目の良いムネ肉。軟らかく優しい口当たりの赤身肉と、脂の甘さも感じられる人気の部位。鴨しゃぶや、ミディアムレアのステーキなど、さっと焼いて提供するメニューがお勧め。岩手県産/冷凍/1pc単位/1pc=450g以上（平均約480g）/4830円/kg（税別）

【岩手 美海鴨 モモ】コク深く、濃厚な味わいが特長の部位で、適度な弾力と、香り高い脂のうまみを楽しむことができる。鴨鍋やすき焼きなどに使用すれば、脂の甘味がダシとなり、絶品の味わいになる。岩手県産/冷凍/1pc単位/1pc=280g以上（平均約300g）/3350円/kg（税別）



「JAPAN PACK2025」を10月7～10日にかけて東京ビッグサイトで開催―JPMA

一般㈳日本包装機械工業会（JPMA、伊早坂嗣会長）は10月7～10日の4日間、東京ビッグサイトにて「JAPAN PACK2025」を開催する。19日には記者発表会が行われた。初めに主催者を代表して安達拓洋実行委員長があいさつ。さらにJPMAの金澤信専務理事が主要企画内容やその背景について、阿部公拓事務局次長が開催概要とみどころについて、桝谷隆一技術部部長が技術的な傾向と特徴について、それぞれ説明を行った。

「JAPAN PACK」は、製造加工から計量・充填・包装・印刷・印字・検査・梱包といった製造ライン全体におけるさまざまな分野の新製品や新技術および新システムなどが国内外から多数集結する総合展で、1964年の第1回以来、今回で35回目を迎える。今回は「BEYOND―包むで創る人と未来とCreate the Future of Packaging Together」をテーマに掲げ、「包装×DX」「包装×GX」をキーワードに、包装分野を中心とした生産ラインのトータルソリューションが集結。革新的なアイデアや新技術の発信により、生活になくてはならない包装産業と関連業界の発展に寄与する。展示テーマは「生産現場の自動化・効率化」「持続可能な社会への対応」「安全・安心の実現」「市場の拡大」の4項目で、それに対応する“包装の新しい価値”を展示公開する。25年は団塊世代が後期高齢者となり、労働力不足や人件費の高騰などが懸念されている。これらの社会問題は「2025年問題」と呼ばれており、包装分野を含むサプライチェーンでも、生産性向上や省人化を実現するDX技術が注目されている。また、2050年のカーボンニュートラルを見据え、省エネ・省資源、環境配慮設計など、持続可能な社会実現に向けたGX(グリーントランスフォーメーション)へのニーズも高まっている。最注目企画として「包装×DX」「包装×GX」コーナーを展開。DX・GX分野における最新の製品・技術・サービスが集結する。会場の特設コーナーや出展ブース、公式サイトと連動し、「問題提起→課題解決→将来構想」のストーリーでデジタルコンテンツを通じ発信する。そのほか、「JAPAN PACK AWARDS 2025」や「IoT特別展示コーナー」、各種セミナーなどを予定。総展示規模（8月19日現在）は、出展者数572社・団体、総小間数2024小間と、前回（23年）実績比で152社・151小間増となっており、海外出展者も増加。来場者は4万人（前回3万4323人）を見込む。

安達委員長は「出展者数、小間数ともに前回と比較してかなりスケールアップしている。今回のテーマは『BEYOND―包むで創る人と未来とCreate the Future of Packaging Together』。前回のテーマの中に『当たり前のその先へ』という言葉があったが、今回は“BEYOND”とし、さらにそれを越えてより大きなソリューションの提案をJAPAN PACK2025で表現したい」と述べ、「現在避けて通れない課題であるデジタル化、環境対応などについて、われわれ自身がいろいろと試行錯誤しながらどのような提案ができるのか。また未来に向けてどういったイノベーションを発信できるのか。そうした可能性をどれだけ来場者の方にお伝えできるかということを企画に盛り込んでいる」と説明した。

中国、豪州産牛肉に対し特別セーフガードを発動

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年1～6月の牛肉輸出量（70万2219ｔ）を輸出先別にみると、中国向けは12万9258ｔ（前年同期比43・9％増）と輸出量を大幅に伸ばしている（図）

中国の25年の豪州産牛肉に対する特別セーフガード（SSG）発動基準数量が20万8307ｔである中、中国海関総署（GACC）は25年7月24日、豪州産牛肉に対してSSGを発動したと発表した。24年のSSG発動基準数量（20万2240ｔ）から増加しているものの、前年（24年10月6日）に比べて75日早い発動となった。現地報道によると、最近の豪州産牛肉輸出量の増加は、中国の輸入業者がセーフガードの発動を予想し、駆け込み需要があったためとされている。

中国では、15年12月に発効した中国・豪州自由貿易協定（ChAFTA）により、豪州産牛肉の関税は撤廃されたが、年間上限を超えた場合（内臓を除く）、安全保障措置を課す権限を維持しており、牛肉の関税率は最恵国税率の12％が適用される。このSSG発動基準数量は毎年増加し、31年までに24万8729ｔまで引き上げられる予定である。

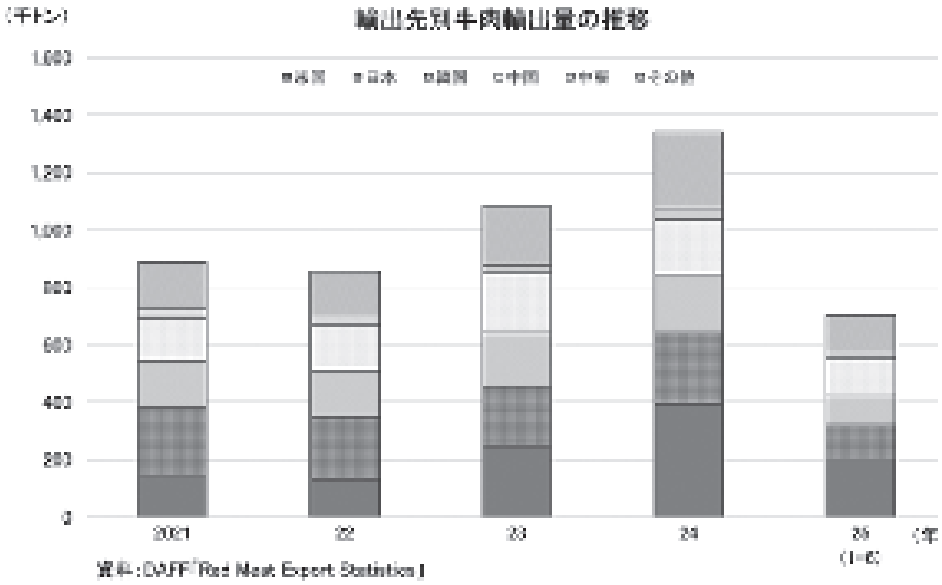
豪州産牛肉に対するSSG発動は今回で6回目となるが、豪州の市場情報サービス企業Expana社によると、米国産牛肉の供給が減少したため、豪州産牛肉の輸入がより拡大したことが要因とされている。これは、中国が米国内の牛肉加工場393施設に対する輸入許可を更新していないことや、米国と中国の貿易摩擦の激化を受けて米国産牛肉に対し、懲罰的関税を課したことが影響したと分析されている。

韓国も同様に、豪州産牛肉輸入量の急増により早くもSSG発動基準数量に到達する勢いである。

DAFFによると、25年1月から6月の韓国向け牛肉輸出量は10万1526ｔ（13・5％増）とかなり大きく伸びている。韓・豪自由貿易協定(KAFTA) は14年12月に発効し、25年の牛肉（内臓、くず肉を除く）のSSG発動基準数量は19万2206ｔ、関税率はSSG発動前の8％から発動後は24％が適用される。韓国のSSG発動基準数量は毎年増加しているものの、コロナ禍後の経済回復措置として課税を免除した22年を除き、毎年発動されている。

Expana社の報告によると、8月11日で豪州産牛肉はSSG発動基準の87・3％に達しており、残りの数量は2万4408ｔとなったことから、9月にはSSGが発動するのではないかと予想されている。

また、豪州の現地報道では、豪州牛肉輸出量はほとんどの輸出先で増加していることから、他の輸出先でもセーフガード措置の発動を招く可能性があることを注視している。さらに、オランダの農協系金融機関ラボバンクは、牛肉輸入国は牛肉の代替供給源が限られている中で、これらの安全保障措置が発動されると、豪州産牛肉の輸入コスト上昇や、供給量の調整などで加工需要などに混乱が生じる可能性があると分析している。（農畜産業振興機構）



［資料］　日本食肉流通センター週間市況　〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉

（令和７年８月10日～８月16日）

（単位：キロ当たり円、税込み、重量kg）

			第１四分位値	重量中央値	第３四分位値	刈込み平均値	取引重量		第１四分位値	重量中央値	第３四分位値	刈込み平均値	取引重量
和牛チルド「４等級」	カタロース	首都圏	3,510	3,757	4,595	3,899	5,441	近畿圏	3,380	3,672	4,320	3,798	9,220
	カタ		3,389	3,454	3,682	3,496	8,765		3,564	3,918	3,996	3,846	8,256
	カタバラ		2,160	2,268	3,740	2,589	2,390		2,225	2,408	3,132	2,481	1,485
	マエセット		－	－	－	－	972		－	－	－	－	－
	ヒレ		8,424	10,260	12,409	9,923	1,050		9,180	9,720	9,877	9,621	1,355
	ロイン		5,459	5,459	6,372	5,845	3,698		5,400	5,400	5,940	5,563	3,717
	ロインセット		6,038	6,047	6,700	6,224	1,006		－	－	－	－	－
	トモバラ		2,160	2,376	2,625	2,348	8,309		2,688	2,713	3,586	2,991	10,699
	ウチモモ		3,900	4,212	4,428	4,183	3,640		3,815	4,320	4,320	4,248	2,277
	シンタマ		3,921	4,212	4,428	4,161	3,180		3,794	4,320	4,320	4,195	2,072
	ランイチ		3,886	4,212	4,644	4,202	3,538		3,990	4,320	4,320	4,293	1,932
	ソトモモ		3,327	3,419	4,400	3,667	1,929		3,471	3,471	3,594	3,499	1,179
	スネ		1,988	2,106	2,322	2,168	1,482		2,007	2,052	2,160	2,044	2,166
	モモセット		4,104	4,224	4,250	4,226	10,896		3,322	3,694	3,996	3,695	15,343
	セット		3,271	3,704	4,535	3,850	21,073		3,549	3,592	4,082	3,687	8,636
	重量合計						77,369						68,337
	カタロース	中京圏	－	－	－	－	593	九州圏	－	－	－	－	942
	カタ		2,970	3,402	3,456	3,261	2,217		－	－	－	－	654
	カタバラ		2,160	2,696	3,002	2,597	1,503		－	－	－	－	522
	ヒレ		－	－	－	－	392		－	－	－	－	95
	ロイン		－	－	－	－	468		－	－	－	－	93
	トモバラ		1,836	2,160	3,834	2,415	3,587		1,890	2,993	4,126	3,203	1,872
	ウチモモ		－	－	－	－	－		－	－	－	－	158
	シンタマ		－	－	－	－	－		－	－	－	－	795
	ランイチ		－	－	－	－	－		－	－	－	－	317
	ソトモモ		－	－	－	－	－		－	－	－	－	53
	スネ		－	－	－	－	－		－	－	－	－	244
	モモセット		－	－	－	－	739		－	－	－	－	－
	セット		3,132	3,593	3,593	3,580	5,001		3,510	3,863	4,190	3,812	2,715
	重量合計						14,500						8,460

（令和７年８月10日～８月16日）

交雑牛チルド「３等級」	カタロース	首都圏	2,754	3,024	3,354	3,040	9,959	近畿圏	2,916	3,188	3,346	3,126	14,660
	カタ		2,484	2,825	3,132	2,848	6,801		2,376	2,517	2,748	2,515	9,159
	カタバラ		1,620	1,989	2,807	2,189	2,944		1,508	1,598	1,810	1,642	2,951
	ヒレ		5,724	5,940	6,480	6,074	2,522		6,480	6,751	7,020	6,732	2,667
	ロイン		4,374	4,539	4,539	4,523	2,242		4,536	4,569	4,860	4,659	6,118
	トモバラ		1,512	2,700	3,244	2,508	7,772		1,566	1,728	2,667	1,957	12,505
	ウチモモ		2,462	2,592	2,700	2,565	3,254		2,376	2,592	2,748	2,568	4,361
	シンタマ		2,592	2,754	2,899	2,751	3,214		2,484	2,700	2,871	2,684	5,047
	ランイチ		2,592	2,752	2,945	2,729	2,467		2,592	2,674	2,700	2,657	5,399
	ソトモモ		2,110	2,160	2,484	2,230	1,082		2,268	2,376	2,484	2,370	3,905
	スネ		1,544	1,620	1,717	1,625	2,590		1,566	1,724	1,752	1,688	3,575
	モモセット		－	－	－	－	－		2,532	2,641	2,905	2,690	6,226
	セット		2,813	3,268	3,510	3,180	15,777		3,045	3,186	3,240	3,175	49,115
	重量合計						60,624						125,688
乳牛チルド「３等級」	カタロース	首都圏	2,586	3,000	3,687	3,043	3,902	近畿圏	2,376	2,902	3,348	2,940	3,380
	カタ		－	－	－	－	189		1,669	1,998	2,322	1,953	2,949
	カタバラ		－	－	－	－	414		－	－	－	－	－
	三角バラ		－	－	－	－	－		－	－	－	－	794
	ブリスケット		－	－	－	－	－		1,296	1,328	1,620	1,365	2,489
	ヒレ		5,273	5,369	5,616	5,415	1,507		4,803	5,616	6,264	5,524	1,336
	ロイン		－	－	－	－	879		3,132	3,456	4,158	3,516	1,721
	トモバラ		2,722	3,002	3,322	2,984	3,374		1,334	1,814	2,267	1,700	5,475
	ウチモモ		2,052	2,117	2,273	2,148	1,962		1,998	2,052	2,237	2,065	4,028
	シンタマ		1,944	2,236	2,273	2,198	1,293		1,836	1,998	2,030	1,985	1,902
	ランイチ		2,052	2,106	2,273	2,112	1,264		1,944	2,048	2,376	2,102	1,645
	ソトモモ		－	－	－	－	376		1,836	2,268	2,376	2,150	2,057
	スネ		1,512	1,512	1,674	1,572	1,368		1,550	1,566	1,696	1,591	3,661
	セット		2,541	2,541	2,541	2,541	11,545		1,835	2,021	2,041	2,004	18,888
	重量合計						28,073						50,325

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

［東京食肉卸売市場］　8月20日
枝肉卸売価格（瑕疵除く）（頭、1kg当たり円、税込み）

◇ 牛生体			5	4	3	2	1
和牛	雌 A	高値	3,131	2,462	2,065	-	-
		安値	2,052	2,007	1,836	-	-
		平均	2,422	2,181	1,948	-	-
	68頭	頭数	50	15	3	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	1,941	-	-	-
	1頭	頭数	-	1	-	-	-
	去 A	高値	3,146	2,244	2,000	-	-
		安値	2,034	1,944	1,836	-	-
		平均	2,351	2,107	1,932	-	-
	203頭	頭数	156	42	5	-	-
	去 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	2,131	-	-	-	-
	1頭	頭数	1	-	-	-	-
乳牛	雌 B　-頭	平均	-	-	-	-	-
	雌 C　-頭	平均	-	-	-	-	-
	去 B　-頭	平均	-	-	-	-	-
	去 C　-頭	平均	-	-	-	-	-
交雑牛	雌 B	平均	1,634	1,648	1,522	1,399	-
	24頭	頭数	1	7	9	7	-
	雌 C	平均	-	1,482	-	1,309	-
	2頭	頭数	-	1	-	1	-
	去 B	平均	-	1,576	1,575	1,500	-
	15頭	頭数	-	5	9	1	-
	去 C	平均	-	-	1,432	1,360	-
	6頭	頭数	-	-	4	2	-

	牛	豚	搬入牛	搬入豚（競り）	搬入豚（相対）	その他
と畜	391	900	-			
売買	398	794	283.0	-	5	56

◇ 牛搬入		5	4	3	2	1
和	雌 A	2,236	1,938	1,511	1,389	-
	B	-	1,531	1,474	1,301	1,252
和	去 A	2,250	2,059	-	1,294	-
	B	-	-	-	1,080	-
乳	雌 B	-	-	-	1,124	-
	C	-	-	-	1,149	1,052
乳	去 B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交	雌 B	-	1,641	1,508	1,235	-
	C	-	-	1,398	1,327	-
交	去 B	1,831	1,693	1,586	1,467	-
	C	-	1,672	1,348	-	-

◇ 豚		［極上］	［上］	［中］	［並］	［等外］
生体	高値	638	937	804	670	568
	安値	605	551	530	421	257
	平均	623	639	592	548	534
	頭数	(5)	(214)	(311)	(121)	(143)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入相対	高値	-	-	-	-	593
	安値	-	-	-	-	593
	平均	-	-	-	593	593
	頭数	(-)	(-)	(-)	(1)	(4)

［大阪食肉卸売市場］　8月20日
枝肉卸売価格（生体）（1kg当たり円、税込み）［ ］は豚規格

	5［極上］	4［上］	3［中］	2［並］	1［等外］
和 雌 A	2,375	1,997	-	-	-
（頭数）	(15)	(5)	(-)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
（頭数）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,276	2,037	1,818	-	-
（頭数）	(24)	(14)	(1)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
（頭数）	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,687	1,608	1,503	-
C	-	1,515	-	-	-
交雑去 B	-	1,707	1,622	1,563	-
C	-	-	-	-	-
豚	-	949	951	936	487

と畜	牛　78 頭	豚　48 頭	牛概況	もちあい
売買	牛　107 頭	豚　72 頭	豚概況	急落

［全国と畜概算頭数］
農水省統計部発表　（頭）

	8月20日	8月19日	（8月累計）
豚	61,000	63,900	645,100
成牛計	4,740	4,830	43,430
和牛雌	1,210	1,160	10,030
和牛去勢	1,260	1,340	10,650
乳牛雌	820	650	7,120
乳牛去勢	570	530	5,340
交雑雌	400	430	4,360
交雑去	480	720	5,900

［去勢牛 B3・2 規格　枝肉取引価格］8月20日

東京	1,517円	（前日　1,602 円）
大阪	1,612円	（前日　1,559 円）

［豚・全農建値］　8月20日

上	中	取引頭数	市況
635 円	593 円	797 頭	続落

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

［主要市場豚枝肉卸売価格］　8月20日　（1kg当たり円、税込み）

	上加重	（前　日）	中加重	（前　日）	と　畜	上　場	市　況
北　海　道［セ］	778	（　778　）	-	（　-　）	5,911	-	もちあい
仙　　台［中］	646	（　672　）	592	（　550　）	509	77	続落
栃　　木［地］	660	（　-　）	625	（　486　）	1,531	71	急反発
茨　　城［地］	637	（　644　）	587	（　615　）	1,185	523	反落
群　　馬［地］	619	（　653　）	530	（　552　）	1,957	285	下押し
さいたま［中］	631	（　621　）	607	（　591　）	156	165	反発
東　　京［中］	639	（　652　）	592	（　604　）	900	794	急落
横　　浜［中］	635	（　651　）	580	（　590　）	679	683	続落
山　　梨［地］	634	（　752　）	553	（　718　）	141	100	急落
浜　　松［地］	-	（　-　）	-	（　-　）	-	-	競り休止
名　古　屋［中］	751	（　755　）	720	（　722　）	707	150	続落
京　　都［中］	-	（　764　）	-	（　739　）	-	-	休市
大　　阪［中］	949	（1,097　）	951	（1,179　）	48	59	急落
神　　戸［中］	-	（　799　）	-	（　814　）	120	-	上場なし
岡　　山［地］	705	（　708　）	703	（　701　）	321	345	もちあい
広　　島［中］	802	（　704　）	-	（　775　）	239	55	急騰
福　　岡［中］	735	（　726　）	692	（　695　）	422	102	反発

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

［日本食肉流通センター］　8月13日～8月19日
豚カット肉［Ⅰ］（1kg当たり円、税込み、重量kg）

◇首都圏　総重量　1,465,375 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,366	1,516	1,607	1,518	70,584
う　で	842	930	972	915	97,978
ロ　ース	1,194	1,353	1,507	1,369	153,554
ば　ら	1,372	1,502	1,587	1,474	155,658
も　も	842	853	918	864	132,466
ヒ　レ	1,128	1,242	1,337	1,245	6,769
セ　ット	1,084	1,150	1,165	1,139	848,366

◇近畿圏　総重量　577,998 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,435	1,510	1,617	1,511	46,371
う　で	815	890	902	873	88,762
ロ　ース	1,272	1,404	1,470	1,379	82,447
ば　ら	1,392	1,434	1,496	1,433	109,541
も　も	820	836	950	853	130,558
ヒ　レ	1,255	1,433	1,648	1,433	8,458
セ　ット	1,034	1,171	1,228	1,150	111,861

［食鳥正肉日経相場］　8月19日
荷受売値平均値（kg当たり円、税抜き）

◇東京（8社）

	安　値	加重平均	高　値	販売量（t）
モ　モ	693	776	964	154
ム　ネ	498	570	727	141

◇大阪（2社）

	安　値	加重平均	高　値	販売量（t）
モ　モ	670	746	1,030	5
ム　ネ	491	531	626	3

［農水省統計情報部食鳥市況］　8月19日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モト	手羽サキ	ササミ
高　値	19日分は22日掲載				
安　値					
平　均					

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日期間中（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50％に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分　位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

週刊 食肉通信

食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランケット判8～12ページ、価格は年間25,000円（税・送料込）

日刊 食肉速報

食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産（牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、ブロイラー）と輸入（米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など）の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円（税・送料込）　※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル

食肉の流通チャネルが多元化する中で、その時々の最も話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総菜の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月上旬、B5判120～150頁、価格は年間23,100円（税・送料込）

■業界動向がデータでわかる

数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。
年１回発行。

B5判 472頁　4,191円（送料別）

■畜産・食肉業界の動向大全

日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁　14,850円（送料別）

◆食肉販売＆経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁　定価2,500円（送料別）

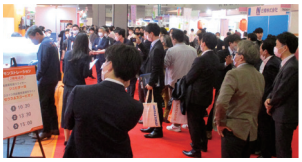
銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁　定価2,200円（送料別）

◆イベント

■国内で唯一、最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚しい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

（HP）
https://www.shokuniku-sangyoten.jp/

◆教材＆レポート等

■あなたの常識を強固にする

今さら聞けない肉の常識

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は？など66の常識をわかりやすく解説。

平野正男 鏡　晃 著　A5判 152頁　定価1,500円（送料別）

■～食肉のプロフェッショナルを育てる～シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁　定価3,000円（送料別）

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版

牛枝肉・部分肉の分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁　定価5,500円（送料別）

■知識を豊かにする

食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編　A5判 506頁　定価7,000円（送料別）

◆ステーショナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm　定価990円　※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXでお近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大　阪　〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48　TEL 06(6538)5505　FAX 06(6538)5510
■東　京　〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10　TEL 03(6206)0929　FAX 03(6206)0928
※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願い致します。
■九　州　〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12　TEL 092(271)7816　FAX 092(291)2995